

地域情報化アドバイザー制度活用報告書（3日目）

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	公益社団法人大日本報徳社			代表者名	鷺山恭彦
担当者部署	事務局			連絡先電話番号	0537-22-3016
担当者役職	事務局長	担当者氏名	網取清貴	連絡先E-mail	
住所	436-0079 静岡県掛川市掛川1176				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	掛川市	連絡先部署	IT政策課		
担当者氏名	神谷孝	連絡先電話番号	0537-21-134	連絡先E-mail	

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	岡本 真				
評価	大変よい				
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	新規事業の実施について、抱えている課題や本社の背景について深く理解して下さり、具体的な助言をいただいた。また、職員の意識が変わるような提案や参考事例をあげていただき、職員間での良い議論が持てた。				
アドバイザーへの要望事項	来年度はセミナーの開催等、事業の具体化の年となるため、引き継ぎの支援をお願いしたい。				

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）	活動時間（分）
3-1. 活動	2022年3月4日	16時00分	17時30分		90
3-2. 派遣場所	会場名	公益社団法人大日本報徳社		最寄駅	JR掛川駅
	所在地	静岡県掛川市掛川1176		最寄駅からの交通手段	タクシー
	派遣形態	支援・助言（オンライン）			

4. 報告書に関してのAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	職員	5人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	本社の特性や背景を踏まえ、目指している報徳文化研究所の設立に向け事業内容の整理、財政基盤をどう考えていくか、実施に当たる事業計画の策定など、具体的な進め方と考え方が定まっていない。	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	事業を進めるにあたり、今までの本社の事業とは違う新しい視点の取り組みについて支援いただき、来年度具体的な取り組みを始められるようにしたい。	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	実験段階として楽しみながら少し進めていくこと。セミナーの開催や来館など、ただの勉強会や観光では終わらせない新しい取り組みを始める。勉強会+エクスカージョン等。地域にいても全国区の視点を持ち活動を広げる。社会課題や実存的な関心、生業に活かせることを学んでいく等具体的な考え方や進め方について助言いただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容（具体的にご記入下さい）	どのような視点で事業を進めていくか具体的な提案や助言をいただき、来年度は実験的にセミナーの開催を予定した。また寄付の募集も開始し、事業を進めていく。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	①事業に係る計画書等を策定できた

改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	報徳文化研究所の取り組みについて組織と体制づくりについて来年度の課題となった。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 職員間で話し合いの場を持たた。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい	②次年度に予算化を図り推進する
事業の最終的な目指す姿	報徳思想の現代的な探求と実践を目指し「報徳文化研究所」を設立する	

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

